

## 「日本語教育の参照枠」の活用のための手引き等の作成について（案）

※「日本語教育の参照枠」一次報告より抜粋(64 ページ)

**9 令和2年度以降の検討課題**

- 「日本語教育の参照枠」の現場への活用に向けて、以下のことについて今後検討が必要である。
  - ① 言語能力記述文の更なる収集
  - ② 一次報告の6レベル別・各言語活動別の言語能力記述文の検証
  - ③ 「日本語教育の参照枠」の日本語能力判定テストへの関連付け方法の開発
  - ④ 「日本語能力の判定基準について（報告）」の検討・作成
  - ⑤ ランゲージ・ポートフォリオ（学習の記録）の開発
  - ⑥ 各レベルの文法・語彙のリストの収集
  - ⑦ 教師のための支援ツール：カリキュラム作成及び評価のための手引等の作成
  - ⑧ 学習者のための支援ツール：利用ガイドの作成や自律学習を支援する教材モデルの開発
  - ⑨ 「日本語教育の参照枠」のイメージ図及び分かりやすい広報資料の作成
  - ⑩ 「日本語教育の参照枠」の多言語翻訳
  - ⑪ 利用者間の成果物（言語能力記述文，教材，ポートフォリオ等）共有のためのポータルサイトの開発
- C E F R 補遺版の分析及び「日本語教育の参照枠」への参照が必要かどうかについては、今後検討する必要がある。
- 参考とする C E F R は開発から 20 年以上を経過した現在でも、検証・見直しが行われており、「日本語教育の参照枠」も随時検証・見直しを行う必要がある。

**令和2年度：現在検討を行っている事項**

- ① 言語能力記述文の更なる収集
- ② 一次報告の6レベル別・各言語活動別の言語能力記述文の検証
- ③ 「日本語教育の参照枠」の日本語能力判定テストへの関連付け方法の開発
- ④ 「日本語能力の判定基準について（報告）」の検討・作成
- ⑩ 「日本語教育の参照枠」の多言語翻訳

**「日本語教育の参照枠」の活用のための手引き等に含む事項**

- ⑤ ランゲージ・ポートフォリオ（学習の記録）の開発
- ⑦ 教師のための支援ツール：カリキュラム作成及び評価のための手引等の作成
- ⑧ 学習者のための支援ツール：利用ガイドの作成や自律学習を支援する教材モデルの開発

## 「日本語教育の参照枠」の策定に向けたスケジュール（案）

令和元年度

- 日本語教育の標準に関するワーキンググループを設置，国民への意見募集を実施  
⇒ **「日本語教育の参照枠」一次報告（令和2年11月20日 日本語教育小委員会）**  
内容：理念・方針、CEFRを参照した言語活動別の熟達度の尺度（6レベル×5言語活動），各尺度における言語能力記述文、Can-do作成・検証ガイドライン等を収録

令和2年度

- 日本語能力の判定基準に関するワーキンググループを設置  
⇒ **「日本語教育の参照枠」二次報告（令和3年3月 日本語教育小委員会）予定**  
内容：日本語能力の評価の考え方，各種日本語能力の判定試験と「参照枠」を対応づけるための手法，社会で活用される試験に求められる要素について

※一次・二次報告はそれぞれ別の内容を取りまとめるため，各報告における内容は取りまとめ時点で確定とする。

令和3年度

- 「日本語教育の参照枠」の活用に関する検討を実施予定  
内容：「日本語教育の参照枠」を基にした，教育現場で活用できる具体的な教師用手引きや，学習者の自律学習支援ツール等の作成に向けた検討

一次報告・二次報告・活用の手引き等を併せて  
**「日本語教育の参照枠」（令和3年度末 国語分科会取りまとめ予定）**

※令和4年度以降にCEFR2020補遺版等の参照について検討を行う予定